

# スポーツガイドライン（仮称）－取組効果を高めるためのポイントについて－

## 具体的な実践例（取組概要）

**県立高校の施設を活用した「星空スポーツ広場」**  
(NPO法人浦和スポーツクラブ)

- 競技レベルに関係なく誰もが気軽に参加できる場を提供**
- 毎週土曜夜に埼玉県立浦和高校のグラウンドと体育館を浦和スポーツクラブが借り、会員に限定せず、広く地域住民に開放し、サッカー、バドミントン、卓球等を楽しめる星空スポーツ広場を開催。
  - 幅広い年齢の参加者が一緒にスポーツを楽しむことで、競技レベルに関係なく誰もが気軽に参加できる場を提供。

**ふらっと健康運動体験教室**  
(東京都日野市、イオンモール株式会社)

- 買物ついでに予約なしで“ふらっと”立ち寄れる機会を提供**
- 日野市がイオンモールと連携して、商業施設内で取り組める健康運動体験教室を開催。
  - 予約しなくても買物中に気軽に立ち寄れるようにする、母親が家を空けやすい平日午前中の開催とする、軽装でも参加できるプログラムとするなど、忙しい子育て世代の女性が参加しやすい工夫。

**ゆるスポーツ**  
(一般社団法人世界ゆるスポーツ協会)

- 多様な選択肢を提供し、自分にあったスポーツに出会える機会を拡大**
- 「スポーツ弱者を、世界からなくす」というコンセプトのもと、協会に属するスポーツクリエイターがプロジェクトごとに連携し、開発すること自体を楽しみながら、自由に新たなスポーツを開発。
  - 「する」スポーツに多様な選択肢を提供し続けることで、どんな人でも自分が楽しんで活躍できる種目を探することができるようになる。

**スポーツを生かした地域活性化**  
(十日町市スポーツコミッション)

- スポーツチームとの交流により、住民のスポーツへの関心を喚起**
- クオアチアを始め、誘致したチームには合宿地としての継続的な利用を促すとともに、地域住民向けの教室開催など住民がスポーツに触れる機会づくりにも協力してもらっている。
  - 同時に、総合型地域スポーツクラブにより、まちなかウォーキングなど住民が気軽に運動できる機会の提供なども推進。

## IV 取組効果を高めるためのポイント

### 1. スポーツ参加促進に向けたポイント

- ポイント1 関心の喚起**  
○インフルエンサーの活用
- ポイント2 誰もが参加しやすい場づくり**  
○ふらっと気軽に参加できる場づくり  
○場の雰囲気づくり
- ポイント3 参加者の継続性を高める工夫**  
○地域コミュニティによる自主的な取組促進  
○参加者が主体となった自治の仕組みづくり
- ポイント4 地域への定着**  
○スポーツの文化としての浸透

### 2. 担い手の持続性に向けたポイント

- ポイント5 現場の創意工夫を促す仕組みづくり**  
○実際の担い手が主体性を発揮できる仕組みづくり  
○トップダウンとボトムアップの組合せ
- ポイント6 指導者不足の解消**  
○指導者ネットワークの活用  
○専門家がいなくても提供できるサービスの確立
- ポイント7 スポーツを実施する身近な場所の確保**  
○近隣の施設や公園、名所などの有効活用
- ポイント8 取組を持続可能とする工夫**  
○受益者負担意識の醸成と起業者マインドを持つ
- ポイント9 ノウハウの蓄積、共有**  
○議論の活性化